

伝えて下さい、

三つの心を

ぐ どう

# 弘道

「伝えて下さい、み仏を敬う心を」

「伝えて下さい、ご先祖を大切にすることを」

「伝えて下さい、お寺参りの心を」

～日蓮宗埼玉県檀信徒協議会～



## 護法団参 総一信行会

平成十九年度 護法団参・統一信行会（埼玉県宗務所主催）が十月二十九・三十日の一泊二日の日程で総本山身延山久遠寺で開催されました。この団参は、信仰の増進と宗徒の団結・交流を深めるため毎年全国各地の霊蹟・由緒寺院（日蓮聖人ご一代の重要な遺跡）および宗門史上顕著な沿革のあるお寺）を参拝するものです。四月一日から実施した『立正安国・お題目結縁運動』の具体的な活動として宗門より提唱された「祖山総登詣」（日蓮宗徒すべてが菩薩行としての但行礼拝を祖山に詣で祖師の御前において行い、信仰の誓いを新たにす）にもとづいて実施されました。

三枝泰英宗務所長を団長とする約三百名の僧侶・檀信徒は県内各地よりバス八台に分乗し一路、身延山へ向かいました。車中では同乗されたお上人から身延山の由来や沿革、団参の目的などのお話をお聴きすることができました。

青天に恵まれ富士山の雄大な

姿を拝しつつ身延山へ到着。現在、祖山（日蓮大聖人のお墓である「祖廟」格護の霊山）の境内では、平成二十一年の落慶を目指す五重塔（完成時には約三十九メートル・江戸時代の工法）が建設中でした。



本堂にて第九十二世 身延山法主 内野日総親下より親しく輪番奉仕の委嘱式（表紙・右写真）が行われ、つづく輪番法要では三枝宗務所長を導師に統一信行会が厳修されました。式中は全員で読経唱題し、岸昭夫檀信徒協議会会長より「誓いのこ

ご奉安されるご真骨堂へと歩みを進めました。

ご真骨堂は白亜の八角堂と拝殿からなる建物で、ことに八角堂内の荘厳は善美が尽くされたもので、七宝の瓔珞（ようらく）や丹精を凝らした梁柱には香木の香りが馥郁と漂っていたのでした。（下写真）

通常のお参りでは八角堂内まで入ることはできませんので、中央の塔中にお祀りされる水晶の宝龕（ほうがん）に納められた真つ白に光り輝く大聖人さまのご真骨を目の当たりにした時、参拝者が心から合掌礼拝をする姿がとても印象的でした。

内野法主親下がご親教でお話下さいましたように、身延山は日蓮聖人のご遺言に従い山深き当地にご廟を建て、七百有余年の間、歴代の法主さまが身延のお山と大自然、そしてお祖師さまのみ心を大切に護ってこられた祖山です。時の領主波木井実長公が寄進なされた十三里四方は、時代とともに堂塔伽藍が並び建ちましたが、今なお日蓮聖人ご在世当時の霊域たる装いを保ち続けております。身延山の清らかなる靈氣にふれますと綿々としてつづく多くの僧侶、檀信徒の信仰の歴史を感じることで

きるものであります。

私たちはお祖師さまが「日蓮が弟子檀那は当山を本として参るべし」とのおことばを頂き、今回の団参にて輪番奉仕という尊い体験をしたことは、深い喜びであると同時に、日蓮大聖人さまに面奉（めんぶ）し、信仰の誓いを新たにする事のできた素晴らしい統一信行会となりました。

今般の有意義な団参実施にあ

たり企画運営頂きました宗務所各聖をはじめとする関係各聖各位に心から御礼申し上げ、例年行われるこの「護法団参・統一信行会」の信仰の旅へ一人でも多くのご参加を広くお勧めする次第です。

**ご真骨堂中央塔中**

当日は屏が開かれ宝龕に納められたご真骨を直接拝することができました。



# 仏教質問箱

Q、大晦日になりますとテレビなどで「除夜の鐘」を鳴らす風景が見られますが、「除夜の鐘」にはどんな意味があるのですか？

A、大晦日の夜に撞かれる「除夜の鐘」の起源は、中国の宋の時代に始まり日本では鎌倉時代以降、特に禅宗寺院で中国の寺院にならい朝暮の二回、百八つの鐘を撞くようになり、やがて室町時代頃から大晦日にだけ撞くようになったものといわれています。

## 【除夜】

まず「除夜」とは、夜を除くと書きますが、ここでいう「夜」とは暗闇の真っ暗で何も見えない状態を表し、転じて「物事に明らかでない」「暗闇に覆われて真実の姿が見えない無明（むみょう）」を意味します。

さて、撞く回数については諸説があります。一般的に、人間の煩惱（捨てがたい感覚と感情）が百八つあるから鐘の清らかな音で煩惱の一つひとつを打ち浄めるとするのが広く知られ

ておりますのでその一例をご紹介します。

## 【百八つの煩惱】

人間には感覚を生じる眼・耳・鼻・舌・身・意の六つの器官『六根』があります。そして、眼が見る「色」耳で聞く「声」鼻で嗅ぐ「香」舌が感じる「味」体が感じる「触」意識する「法」といった六つの器官にはそれぞれ固有の知覚がありこれを『六塵』とも『六境』ともいいます。

また知覚が生じた『六根』は物事に対し、「好意」「悪意」「平意（どちらでもない）」の三つの感情『三不同』を生じますので、『六根』×『三不同』＝十八の煩惱となります。

さらに『六塵』には、「楽」「苦」「捨（苦しくもなく楽しくもない）」といった三種の心の働き『三受』も生まれますので『六塵』×『三受』＝十八の煩惱となり、十八×十八で三十

六の煩惱となります。

（他説では、ここで『六根』×『三不同』×二（二染（迷い）と「浄（迷いのない状態）」という二種の煩惱」という計算もあります）  
そして、この三十六の煩惱が過去・現在・未来の『三世』に渡って生じるという考え方から三十六×三で百八の煩惱となるとされています。

【百八尊の諸仏諸菩薩】  
そしてこれを救うために仏さまや菩薩さまの百八尊が、新年を迎えるにあたり私たちの百八の煩惱を取り除いて下さり、安穏な気持ちで新しい年を迎えることができるようにという意味が込められ百八つの鐘を叩くといわれております。

【鐘を撞く作法】  
まず鐘を撞く前には鐘に向かつて合掌します。百八回のうち百七回は旧年（十二月三十一日）のうちに撞き、残りの一回を新年（一月一日）に撞きます。叩き方にも「弱く」と「強く」を交互に繰り返して、弱く五十四回、強く五十四回撞いて百八つの鐘の音を響き渡らせる作法があります。

【平和の証】  
今でこそ平和な時代で、「除夜の鐘」を各地で聞くことができるのですが、戦争中は、日本では鉄が足りなく梵鐘などを軍に持って行かれたお寺も多かったようです。そう考えますと今、聞くことができる鐘の音は平和の証と申せましょう。

埼玉県内のお寺でも「除夜の鐘」を撞かせて頂けるところがあるようです。また、十二月三十一日、各お寺では「歳末報恩会」または「大節会（だいせちえ）」と称し、年内の安泰を感謝し、煩惱の焰（ほのお）を滅除する法要も行われているとお聴きします。お題目の信仰をもつて「除夜の鐘」とともに、今年、一年の心の垢を落とし、来年への希望をお祈りしてみたいかがででしょうか。



# 宗門運動発願大会



研修の様子—提供・日蓮宗新聞社

九月十、十一日、総本山身延山久遠寺（法主内野日總親下）にて『立正安国お題目結縁運動』発願大会が開催されました。

今年四月一日から実動したこの宗門運動は、「敬いの心で安穏な社会づくり、人づくり」を目標に掲げ、檀信徒を担い手の主体とする一大信仰運動です。全国から参集した約四百名は酒井日慈日蓮宗管長（大本山池上本門寺貫首）を大導師に発願法要を行い、宗門運動を推進してゆくことを日蓮大聖人にお誓いしました。

本大会には、当管区より三枝泰英宗務所長（宗門運動支部長）福岡淳亮宗務副長（宗門運動支部長）、須加晃正宗務担当事務長（同）、仁部前崇伝道

担当事務長（同）、埼玉県檀信徒協議会を代表して小久保定良理事（上原寺檀徒）が参加し、法要や研修にご精進されました。

## 新潟県中越沖地震

### 義援金寄託

十月二十四日、県内ご寺院を通じて寄せられた新潟県中越沖地震義援金二百九万円が、日蓮宗宗務院に寄託されました。

管内を代表し、三枝泰英宗務所長と外岡信昭社会教化事業協会会長が、日蓮宗宗務院を訪問し、小松浄慎宗務総長に義援金を手渡されました。



外岡会長 三枝所長 小松宗務総長

この地震は今年七月十六日、新潟県上中越沖を震源とするもので、本宗寺院だけでも五十ヶ寺に甚大な被害を与え、地域住民に深刻な被害をもたらした。国は激甚災害の公布をしました。季節はこれから冬へと向かっており、寒さ厳しく雪深い地域だけに一日も早い復興が望まれます。被災された皆さま方にも一日も早い身と心の平安が訪れますことを祈念申し上げます。

## 『寺子屋』

### 青年会主催

第二十四回『寺子屋』（埼玉県日蓮宗青年会主催 永長正典会長）が、七月二十四日〜二十六日までの二泊三日の日程で開催され、県内各ご寺院から檀信徒のお子さん・お孫さん四十二名が参加しました。

期間中、小学一年生から中学三年生までの子供たちは、会場の妙典寺（永長海晃住職）に於いて読経練習や唱題行などの仏道修行を体験。また、会場近くの自動車教習所での交通安全教室。市

民体育館でのレクリエーション。境内竹林の竹を使った流しそうめんなどを行いました。普段ではできないお寺での生活を基に、遊びを取り入れた楽しい中にも楽しみのある『寺子屋』を開催することができました。物心両面にわたるご支援を賜りました県内ご寺院並びに檀信徒の皆さま方のご協力に感謝申し上げます。



寺子屋の1コマ